



2001.10.15
第4号

発行
四国ゴルフ連盟
〒790-0921
愛媛県松山市福音寺55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

コアで1位を分け合った。成績

- は次のとおり。
- ①屋島514 ②松山シーサイド517 ③J・クラシック527 ④詫間528 ⑤今治531 ⑥鳴門532 ⑦土佐ユートピア532 ⑧道後533 ⑨高南536 ⑩琴平538 ⑪パシフィック539 ⑫御所545 ⑬ロイヤル高松547 ⑭高松547 ⑮綾上550 ⑯北条550 ⑰愛媛551
- ▽個人の部 ①江西博文、平山昌俊 (J・クラシック) 69

古豪松本(山)V

シニア最年長の挑戦実る

第21回四国シニア選手権(9月26・27日、松山ゴルフ倶楽部、6244ヤード・パー71、153人参加)

初日の予選競技はピン位置、ラフの厳しさに加え風の影響もあって、全体にスコアは伸び悩んだ。

68歳、ミッドアマ競技のシード権を放棄してシニアに挑戦した最高齢者。ホームコースとはいえず、

が、最終日決勝はやや改善された。首位に1打差の2位タイにつけていた松本洋右選手がパープレイで回り優勝をさらった。



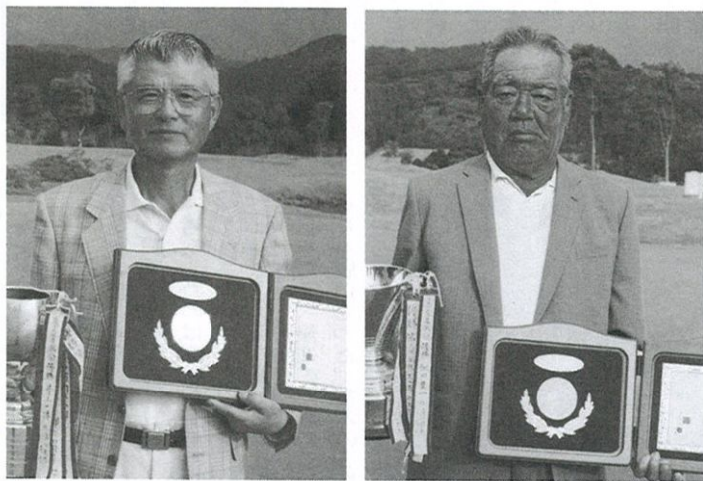
大亀理事長から優勝カップを受け取る松本選手(左)

算4オーバーの成績は見事で、古豪健在を強く印象づけた。シニアばかりでなく若手選手にも良い刺激となるだろう。

なお、シード権のある黒川倫行選手(愛媛)のほか上位3人が、日本シニア選手権(11月14・16日、広島CC八本松コース)への出場

- 権を獲得した。成績次のとおり。
- ①松本洋右(松山) 148 ②嵯峨昭三(J・クラシック) 150 ③上村親之(パシフィック) 152 ④森松弘隆(今治) 152、八木陽岱(サンセット、13番16ヤードでホールインワン達成) 152

ミッド井上(大洲)ランド嶽田(徳島) ともに好スコアで初の王座



井上一博選手

嶽田豊一郎選手

第8回ミッド・ランドシニア選手権(9月19・21日、レオマ高原ゴルフ倶楽部、ミッド6367ヤード、90人参加、ランド6012ヤード、56人参加)

たつぷりの距離、アンジュレーションに富むグリーン、しかも乗用カート無し。そんな過酷なコンディション下、ミッドで井上一博選手、ランドでは嶽田豊一郎選手が常勝岡林大一郎選手らを退けて、それぞれ初優勝した。全選手がスコアメイクに苦しんだだけに、両優勝者のスコア(16、19)は評価されよう。

残暑の厳しい中での二日間の徒歩プレイは、高齢者にとって負担になるのではと心配されたが、事故もなく気焔万丈のプレイを見せてくれた。成績次の通り。

ミッドの部 ①井上一博(大洲) 151 ②真木清臣(新居浜) 151

女子競技の新設決定

アンダーハ年来年9月新居浜CCで

女子の公式競技が来シーズンから一大増えることになった。六月の四国ゴルフ連盟理事会で正式決定されたもので、女子ゴルフファンの底辺拡大につながるものと期待されている。

新設競技はアンダーハンディ方式で、名称は四国レディースゴルフ大会、学生を除き年齢制限なし。開催日、場所は平成十四年九月四日新居浜CCに決まった。

女子だけが競う公式戦は、シニア

ズン最初に開かれる女子アマと男子と併催のジュニア選手権だけでなく、増設を求める声が強かった。今年度から競技委員会メンバーに参加した女性委員らの協力を得て

実現する運びとなった。

このほか来年度主催競技の日程が次のとおり決まった。

四国女子アマ 5月15・16日 四国アマ 6月5・6・7日 四国ジュニア 7月24・25日 四国クラブ対抗決勝 8月22日 四国女子(仮称) 9月4日 四国シニア 10月2・3日 四国ミッド・ランドシニア 10月9・10日

- 57 ③藤本明正(チサン北条) 158 ④小川清久(グリーンフィールド) 159 ⑤長尾忠明(阿南) 160、安永利久(松山シーサイド) 160
- ランドの部 ①嶽田豊一郎(徳島) 153 ②和田年生(宇和島) 160 溝口要(高松ランド、5番153ヤードでホールインワン記録) 160 ④伊藤昇(土佐) 161、岡林大一郎(錦山) 161

- 今年も酷暑の中の闘いだった。第一日から36度を上回る炎暑で選手の消耗は激しく、リタイヤする者も出たが、各ランクとも健闘し全国的にも恥ずかしくないスコアを残した。特に男子15・17歳の部で二連覇を果たした山本隆充選手の将来性が注目された。最終成績は次のとおり。(3位まで)
- ▽男子15・17歳の部 ①山本隆充(明徳高3年) 143 ②大宮正幸(香川西高1年) 145 ③河平英克(明徳高3年) 147
- ▽男子12・14歳の部 ①藤原元(明徳中3年) 170 ②前田真秀(八万中3年) 174 ③立川佑太(勝賀中1年) 175
- ▽女子15・17歳の部 ①横峰さくら(明徳高1年) 149 ②横山倫子(香川西2年) 150 ③池田亜規(明徳高2年) 152
- ▽女子12・14歳の部 ①秋山紗恵子(明徳中2年) 154 ②坂本優里(椿中1年) 159 ③綾田結子(紫雲中2年) 160
- ▽小学生の部 ①大谷和弘(付属高松小4年) 153 ②松本英樹(雄郡小4年) 164 ③越智満久(愛大付属小5年) 210

屋島CCに初栄冠

第21回四国クラブ対抗決勝

個人は江西・平山(Jクラシック)



激戦を制しての初優勝を喜ぶ屋島CCチームのメンバー

四国ゴルフ連盟の平成十三年度公式競技がすべて終了した。五月の女子アマ大会で開幕した今シーズンは終始好天に恵まれ、一競技でスタート時間繰り下げがあった以外、トラブルもなく順調に消化、熱戦が展開された。特にシニア三競技の頑張りが目立った。また、全大会に「日本ゴルフ百年祭記念」の冠が付き、競技を盛り上げた。



江西博文選手



平山昌俊選手

第21回四国クラブ対抗決勝(8月23日、詫間カントリークラブ、6640ヤード、パー72、17クラブ136人参加)

最後まで予断を許さぬ接戦が続いたが、屋島CCが2位に3打差で初優勝した。好コンディションに加え、今年から50歳以上3人参加の選手規定がはざされたため各チームとも戦力強化を図り、当初からハイレベルの戦いが期待された。

予想どおりアンダーパー11人という混戦模様となったが、若手を中心にした屋島が常勝今治CCや強豪シーサイドCCを抑え競り勝った。開催コースの詫間CCも4位と健闘した。

個人戦は江西博文、平山昌俊のJ・クラシックGC勢が69の好ス

おらが倶楽部でござる

其の五 志度カントリークラブ

志度カントリークラブは昭和三十九年五月、香川県では高松カントリー倶楽部に次いで、二番目に開場しました。

開場式典には岸元首相はじめ多数の来賓をお迎えし、盛大に催されました。その時、元首相に揮うに当たった「信技術一如」の額は、今もクラブハウス三階に掲げられています。

源ちゃん池にご用心

その後、昭和四十一年に9ホール(西コース)を増設して27ホールのゴルフ場が誕生しました。コースの設計は、当時第一人者のひとりといわれた故佐藤儀一氏。自然の地形を生かし、変化に富んだコースで、正確なショットと多彩な技の要求されるレイアウトになっています。

初めてのお客様から「ここは難しい。落とし穴がある」と、よく言われます。特に東コースの7番ホール(548ヤード・パー5)



幻のプレーオフ事件で優勝した十亀賢二選手(昭和58年3月27日)



志度カントリークラブ
〒769-2103
大川郡志度町小田231
TEL087-896-0111

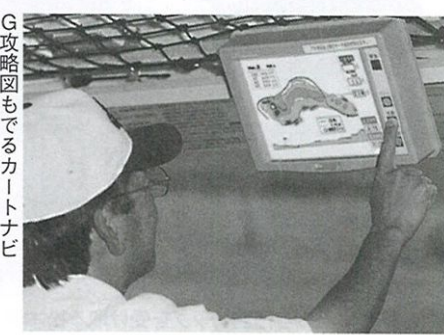
あと7組が残っていた。トップと3打差では優勝の目はないと思つた安田は、早々にタクシード空港に向かった。ところが一時間後、全選手がホールアウトしてみると、安田と十亀が4アンダーで並んでいる。驚いた増田光彦競技委員長は安田を捜したが、安田は既に空港喫茶店に居ることがわかった。時間

は刻々と過ぎていった。競技委員長は空港の安田に電話した。「プレーオフの権利放棄とみなしてよいか」。安田は承諾せざるを得なかった。こうして十亀優勝、安田2位が決定した。これが史上初の「幻のプレーオフ事件」の真相なのです。(裏山勝輝・志度カントリークラブ支配人)

幻のプレーオフでん末

当クラブは昭和五十四年からツアー競技として香川県オープンを開催し、途中で名称をKSB瀬戸内海オープンと改め、平成三年テラメイドKSBオープンまで計7回のトーナメントを開催しました。そして昭和五十八年の大会で前代未聞の珍事が起きました。要約すると次のようになります。

出場者136人、73人が予選通過。二日目最終日は激戦となった。初日66で首位に立った当クラブ所属の十亀賢二(現在フリー)を関東、関西勢が激しく追っていた。初日パープレーで18位の安田春雄もその一人だった。最終日の安田は、17番まで6アンダーで回ってきたが、18番ロング(中コース9番)で第二打をまさかのOB。痛恨のダブルボギーでホールアウトした。コースには、



G攻略図もでるカートナビ

安全強化へ四国初のカートナビ

「カップまでの正確な距離は？」「霧で前が見えない。打つてもいいの？」こんなプレーヤーの疑問に直ちに答えてくれるゴルフカート専用の最新兵器が先頃松山(サイドCC(愛媛県菊岡町))に四国で初めて導入された。プレーヤーの安全と進行管理のため開発された衛星利用のナビゲ

お四国随想

日本人で確実な信仰を持つ者は少ないだろう。歳を取ると信仰の大事さがわかってきたが、今さら南無阿彌陀仏を唱える事も出来ず賛美歌を唄い十字を切るのも面倒ゆい。人は困難に直面すれば自分以外の絶対的なもの、神仏に頼りたくなる。

風の季節は 難所に一変 全コースから海が一望

海が望め、視界のきく日は小豆島などの島々、沖を行く船の景色が楽しめます。特に白亜の灯台に向かって打つ中コース5番は、そう快感抜群。風の強い季節は、難所

手島皓一

敬虔な姿があった。先年事故死したベイン・スチュアートは常に腕に「WJJD神はどうなさるのだろうか」と書いた腕輪を着けていた。英国のホビー・ブラッドショウ(全英オープンで

見るにつけ、彼らが敬虔なクリスチャンである事を知り、そこに彼らの強さの秘密があると考えた。調べると欧米プロのほぼ全員が日曜礼拝に行き、クレンショーやワトソンら多数のプロは時間が許



ゴルフと信仰

ガラス瓶に入ったボールをそのまま打ち、優勝を逃がす。浅いラフで小さな花の群落をペナルティを払い避けて打った。少年時代を牧師に育てられた。の様な選手を

せば聖書研究会に出ている。全英、全米オープン優勝者で現在解説者のジョニー・ミラーは敬虔なモルモン教徒だと、フェニックスオープンに行つて知った。

1 ションシステムで、仕組みは基地局(クラブハウス)と移動局(カート)に液晶テレビと無線機などを設置。基地局の液晶画面にはコース全体と各カート位置が映し出され、プレーの進行を管理する。

一方、移動局には各ホールのレイアウト、グリーン図、ティショットの飛距離などが画面に映る。またプレー中の忘れ物、病人や怪我人、カミナリ警報なども基地局と連絡がとれて安全管理の向上にも役立つ。

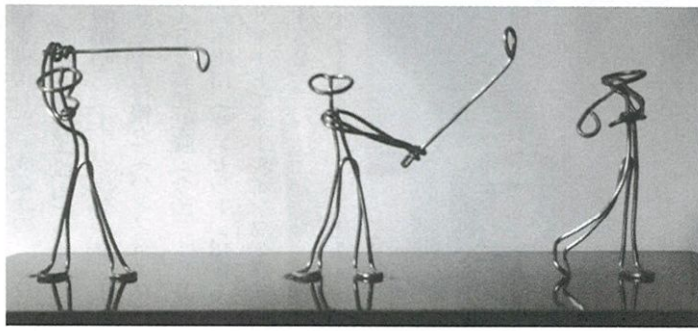
システム一式の投資総額は三千万円。全カート60台に装備したが同CCは「とても好評。入場者アップにつながれば」と期待している。



銅線使いゴルフのスイング人形

高松の増田プロ考案

一本の銅線で作ったゴルフのスイング人形(写真)が、ゴルフファの間で話題になっている。考案したのは高松市鬼無町に住むプロゴルファー増田光彦さん、六十三歳。今年、プロ生活40年の節目を迎え、後進のための教材づくりを思い立った。基本の大切さ



編集を終えて

四国ゴルフ連盟の2000一年公式競技が終わりました。ゴルフへの逆風は相変わらずですが、21世紀最初の年にふさわしく大いに盛り上がったシーズンでした。▲新世紀だから大会運営にも改革のメスを入れました。大胆に式典を簡素化し、クラブ対抗を除いてレセプションは廃止、表彰式も舞台を外に移しました。天も味方してくれたのか、どの大会も好天に恵まれてさわやかな式典になりました。▲コンピュータを積極的に活用しました。手作業だったスコア集計、組み合わせ表の処理が一挙にスピード化できました。同時に競技情報をインターネットに送り、選手が携帯電話で順位や組み合わせ表をすぐ確認できるようにになりました。▲少々気がかりなのは、競技参加者が下降気味なこと。不況に悩む世間への気かねなら残念です。戦時中と違いゴルフは今や国民スポーツ。胸を張って参加して欲しいもの。▲それにしても米国を襲った連続テロに激しい怒りと不安を覚えます。早く平和の回復を祈るばかり。平和であつてこそゴルフです。 (T)